

## 令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

(1) 都立大島海洋国際高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 学校・内部委員及び事務局の構成

校長、三好副校長（評価委員・副委員長）、水野経営企画室長、主幹教諭・教務担当（評価委員）、主任教諭・進路指導担当、主幹教諭・生活指導部担当、主任教諭・寄宿舎担当、主幹教諭・海洋・安全管理部担当 計8名

(3) 協議委員の構成

首都大学東京准教授、大島町教育文化課長、大島町立第三中学校長、元大島南高等学校PTA会長、大島町観光協会会長、伊豆大島ジオパーク推進委員、現PTA会長（評価委員・委員長）、現PTA役員 計8名

### 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和元年7月2日（火）内部委員5名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、  
今年度学校経営計画の説明、  
本校の現状と課題等説明、意見交換、その他

第2回 令和元年10月17日（木）内部委員5名、協議委員4名

学校の現状説明、学校評価アンケートの内容検討、意見交換、その他

第3回 平成31年2月6日（水）内部委員6名、協議委員3名

これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケート結果の報告、  
本校の今後の在り方に関する調査の分析結果について、意見交換、その他

(2) 評価委員会の開催日、内容、その他

第1回 令和元年 7月2日（火）

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和元年 10月17日（木）

今年度のアンケート内容の最終検討

第3回 令和元年2月 6日（水）

今年度の「評価報告書」のまとめ及び報告書に基づいた「提言」について

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

実施時期は全て11月

- ・対象：全校生徒 規模：219人
- ・対象：保護者全員 規模：219人
- ・対象：地域・住民 規模：178人
- ・対象：教職員 規模：36人

(3) 主な評価項目

- ・学校生活、安全指導、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、施設・設備など。
- ・平成30年度より「ライフ・ワーク・バランスの推進」に関する評価項目を追加

(4) 評価結果の概要

全体的に否定的なポイントがやや増加している。

- ・2「学校生活は充実していますか(学校生活)」については前年度比で否定的ポイントが7%減
- ・3「安全・安心な生活を送れるよう、人権を尊重する意識が持てましたか(安全指導)」については、前年比で否定票が8%増
- ・5「基礎・基本を重視しわかりやすい授業が行われているか(学習指導)」については、前年比で否定票が9%増

この3や5については教員の結果から、自校の教育に対して課題意識を持っていると考えられる。

(5) 評価結果の分析・考察（アンケート集計結果を参照）

- ・「体罰」に関する項目では、昨年度から大きな変化ないが、2割ほどが取組不足と答えていることに関しては問題である。この結果を教職員で真摯に受け止め、指導を見直してゆく必要がある。
- ・今年度は進路指導に関して全体的に肯定的な評価の増加が見られた。生徒の状況把握ときめ細やかな指導が功を奏したと考える。
- ・「ライフ・ワーク・バランス」に関する項目では、職員全体で評価が減少している。学校職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部改正に伴い、校内体制が整備されていないことに加え、寄宿舍があることから舎監勤務が加わるなどが原因であると考えられる。また、乗船実習における乗船教官の超過勤務に関しても今後の課題である。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・昨年同様、ボランティア活動、地域行事への参加、部活動結果等について高く評価されていることが分かった。
- ・新造船大島丸の民間委託による運航について一定の理解が得られた。
- ・学校評価アンケートの結果を参考とした評価委員会の「提言」を頂くことができた。
- ・台風15号による校舎被害について、経験から得られたことを次に繋げるためにも、地域防災関係に講演会などを依頼するなど記憶に留めることを実施することなどを勧められた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域で本校の生徒のあいさつやボランティア活動、行事への参加について好意的に受け止められている反面、交通マナーがマイナスに受け止められていること
- ・新大島丸が波浮港へ入港しないのではないかと地域の方たちが気に掛けている。新大島丸の運行予定について出来る限り情報発信することが求められている。
- ・ライフ・ワーク・バランスの質問から、本校の教職員の在校等時間の実態について情報発信したが、現状として昨年度と変化がない状態である。特に乗船教官の超過勤務に関しては、生徒の航海実習期間や実習内容にも影響している。

これらの現状から、航海実習について見直しを図らなければならない、協議委員からの意見な

どを参考にしより良い航海実習になるように検討が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、あらゆる機会に学校の教育方針を説明し理解を得る。

(2) 学習指導

- ・本校の宅習や家庭学習を活用した学力向上の取組を確実に実施する。その上で、国レベルでの大学入試における「高大接続システム改革」に対応した教育内容を検討し、本校としての取組の方向を検討・実践してゆくことが求められている。関連で、学校の授業や寄宿舎の「宅習」の内容・取組について令和元年度に引き続いて「学習委員会」が核となって検討を進める。

(3) 特別活動

- ・部活動は今年度も盛んであった。関東大会や全国水産大会などで好成績を納めた部活動も多い。また、町の体育行事においても各部が積極的に参加している。今後もより一層の活性化を図る。

(4) 生活指導

- ・教職員と保護者とが連絡を密にし、よりきめ細やかな指導を心がける。

(5) 進路指導

- ・1学年から卒業までを見据えた継続的な意識づけの必要性。
- ・キャリア教育の組織的な展開
- ・寄宿舎での生活や学校での学習について組織的な教育相談体制の継続。

(6) 健康・安全

- ・「安全指導の日」を中心とした生命、人権の尊重に対する意識教育を徹底する。
- ・校内老朽化について、中学生にはマイナスイメージであることも考え、可能な範囲での修繕等の対応に着手する。

6 「学校が良くなった」と答えた協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人(採点時3人)

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
0	4					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

【実績】職員会議及び企画調整会議への参加は今年度実施していない。